会　議　議　事　録（抄）

会　議　名	2022年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2022 年 7 月 22 日(金)15 時 40 分～17 時 00 分
会　　場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール/9F 904 教室
参　加　者	＜外部委員:3名＞　　（順不同・敬称略、役職は委員名簿参照） 小山 誠之 （株式会社パワープレイス ﾌﾟﾚｲｽﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾝﾀｰ教育・公共ﾃﾞｻﾞｲﾝ部 部長） 島田 祐輔 （apgm デザインアトリエ/法政大学大学院デザイン工学研究所 兼任講師） 鈴木 俊恵 （STeam/一般社団法人 日本ｲﾝﾃﾘｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ協会 東京圏支部） ＜内部委員:2 名＞ 髙山寿一郎(専門学校 東京テクニカルカレッジ　　インテリア科科長、議長) 村田 涼 （　　同　　インテリア科、書記）
	＜第二部 系別分科会＞15:40～17:00 9 階 904 教室 1. 議長挨拶(髙山) 2. 前回(系別分科会)議事録の確認 (村田) ・昨年度委員会後の校外学習の運営についての報告(髙山) 3. 校外学習に関する報告 4. RJP に関する報告 5. 資格試験に関する報告 6. 就職に関する報告 7. 各系各科の取り組み等に関する「意見交換」 8. 次回日程・閉会の挨拶
討 議 内 容	3.） 校外学習に関する報告 昨年度委員会後から現在の校外学習などの運営について インテリア科の授業のポイントとなる校外学習が感染症の影響で上手く実施できておらず、どのように実施していくのか意見交換を昨年行ったが、昨年度 11 月以降の校外学習では、代表グループによるオンライン配信を行うというハイブリッドの形式を行うなど、実物に触れる機会は少なくなってしまったが、見て学ぶことは出来た。また今年度は状況が改善してきていたこともあり1・2期までの校外学習は計画通り実施できている。(髙山) 4.)RJP に関する報告 RJP ついては今年も同様に東仁学生会館のモデルルーム/リノベーションの提案をしているが、今年度は改装の為の予算が取れず工事の実施は無く提案のみという形、優勝チームではなく上位 3 チームというように選んでいただき、状況が良くなれば将来的にその部屋を量産化していく可能性もある、その為今回のテーマは「コストパフォーマンスの良い部屋」となっており、学生にも最初から計画予算(15 万円)を伝え計画をしています。 また、ハードルの高いテーマですが昨年度意見交換の中で出た IKEA やニトリ、ヤマダ電機などといった大型店舗のブースに学生の空間展示ができないかという件についてはまだ話が進んでいない状況。(髙山) 5.)資格試験に関する報告 インテリアコーディネーター試験では昨年度 1 次試験では 1 年生 2 名の合格、2 年生 6 名の合格者がおり、2 次試験では 1 年生 1 名、2 年生は 4 名の合計 5 名のインテリアコーディネーターが生まれました。 そのほか前年度の色彩検定は前期 96%で、福祉住環境コーディネーターは 72% 今年度は色彩検定は受験ベース 82%で、留学生の日本語能力不足などの要因もあり合格率を落としてしまった。福祉住環境は現在(7～8 月)受験中だが、難易度が昨年より上がる可能性があり、低くなってしまいそうです。 どちらも後期の試験があるためそれ向けて、スタジオアワーを軸にフォローアップを行っていきたい。(髙山) 6.)就職に関する報告-配布資料(インテリア科就職先一覧) ほとんどの学生が住宅関連となっている、またインテリア科として住宅関連や内装・インテリア素材・建築分野などの内容で想定通りの進路になっている、また今年度はすでに 76%でコロナ禍になったここ数年で最も良い状況となっている、内定企業はリフォームやハウスメーカーといった住宅関連がメインで変わらず。(髙山)

	7.）各系各科の取り組み等に関する「意見交換」 ① 今後のインテリア分野において予想される動向・発展の方向性 ② それを受けて今後の専門学校教育が取り組むべきこと・期待するところ ③ 2つ以上の専門性を有する複合人材の有用性に関して ・①感染症の状況も踏まえ、インテリアの分野は今後どうなっていくか？ リフォームや新築工事など、現実的には仕事の数や、していること・打合せの内容などは以前（コロナ前）と大きくは変わっていないが、手袋を着用したりアクリルパネル、消毒を行うということや、40 代以下など若い世代を中心にリモートの打合せが増えてきた、住宅との中継なので家の中の様子を気軽に見せてもらえたりという利便性が高い面もある、リモートやこういったものは今後どんどん活用されて変わっていく気がする。 とはいえお客様と直に会うことや現場に行くこと、校外学習で行っているように実物を確認しにショウルームへ行くことなど、コロナ禍であっても家具などは実際に触れて納得して選んでもらうというのは欠かせない、VR などの技術が進んでも最終的にそういう機会は必要だと思います。 （鈴木委員） ―提案や打合せ段階はリモートで細かいところや最終的な決定は実物を見るという流れになってくるのでしょうか？（髙山） 特にリモートに慣れている若めの方や 40 代中ごろまでの人ならその流れが多くなりそうです。 （鈴木委員） 最終的には現物を見ないと決まらない、決められないことが多いが、その過程は VR などテクノロジーを使い検討するという方法に変わってきている、例えば不動産など VR 内見など実際に活用されている。 （小山委員） 今の世の中のリモートワークなどの需要からリフォームでそういったスペースを作るだけでなく、新築なら部屋作りの段階でリモートワークの為の部屋を計画するなど、個別のブースのようなものがインテリアとして浸透していくと思われる。 （島田委員） ―ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝの分野は右肩上がりで伸びてきていますが今後も伸びていくでしょうか？（髙山） ﾘﾌｫｰﾑﾘﾉﾍﾞはある種の主流のようなもので当たり前の存在になっていると思います。電気自動車の普及などで部屋の中に車を駐車するといった発想もあり、住宅インテリア空間に影響を及ぼしていくのではないか、またデザイン性のある空間の区切り方、ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝなどが出てきそう、大工事がいらず設置でき、デザイン性・可変性の高い仕切りなどが今後求められてくると思われる。 SDGs や省エネの ZEH などインテリアにどう組み込まれるのかなどという課題がある。デザインと機器設備の融合、ｿｰﾗｰﾊﾟﾈﾙなどをデザインにどう落とし込むかなどという考えが必要になってくる （島田委員） デザインや設計をメインでやっている人は省エネ設備的なものについては知らない人、苦手な人が多いが知らないといけない課題 （鈴木委員） ―オフィスや教育機関の空間などではいかがですか？（髙山） オフィスなどはコロナの観点から行くと、今年からアフターコロナかと予想されていたが、まだまだ With コロナの状況で未だにこれという形が定まっていない。会社によっては完全テレワーク・完全出社・その半々と分かれている。また最近は家が働く場所になってきている、学校でも小中高は対面実施が多いが大学や専門学校はリモートも多い、住環境が働く場であり学ぶ場にもなるという変化が起きていて、これは今後も続くし戻ることはないと思います。 働く・学ぶ為の環境（回線や機器類やスペースなど）が必要になり、住環境は住む場＋働く場＋癒しの場といったような今までにない要素が出ててきている。では逆にオフィスや学校には何が必要になるのかという観点では、個人で黙々と作業するようなオフィスは不要になり、学校も話を聞くだけの授業には行く必要が無くなる。センターオフィスや学校というのに求められるものは変化の時期を迎えている。 家や学校・オフィスもそうだが決められたデザイン・形・使い方が無くなってきていて、使う人がカスタマイズするというのが今の流れとなりつつある、オフィスでいうと「ABW」（Activity Based

	Working)という可変性・独立・連結できる机などで使用方法をカスタマイズできるようなものがでてきている。また SDGs というものに対して世の中全体でふわっとしている部分があり、それに配慮した空間を作りたいという漠然としたオーダーがされることもある、ソーシャルデザインや社会の流れに沿った運用をするために知識を付けておく必要がある。 （小山委員） ・②それを受けて今後の専門学校教育が取り組むべきこと・期待するところ ―アクリル板仕切りなどのデザインについて話題がありましたが、小山様のほうでは教育機関やオフィスなどを計画する際にアクリル板などは一緒に計画されますか？（高山） 1,2 年前にデザインとして組み込むかと話題になったが、アクリル板などの仕切りは永久的なものではなく一時的なものという認識がお客様にもこちらにもあるため、デザインとして組み込むということはしていません。 （小山委員） ―パワープレイスのオフィスにあるような壁面がスクリーンとなるような部屋はリモートなどにも適していると思うのですがそういった部屋の要望は増えていますか？（高山） 増えています、もともとリモートやコロナの為の物ではなく、思いついたことが壁面にさっと描けたり、スクリーンとして投影ができたりする利便性がある、これは GIGA スクール/アフターGIGA という構想にもつながり、実際の学校にはこういった教室が無いが PC を活用していくためにもこう言った需要が増えています。コロナの影響もあり PC での授業などから加速してきている。 （小山委員） 今の時代の IT などの技術を使いこなせるのは特別さというのが薄まってきていて、スキルの基準というのがすごく上がっていると感じます。テクニカルカレッジでは技術面はあるのでそのスキルの先の使い方、考え方というのが人材に求められるのではないか? （鈴木委員） ―学校全体の取り組みとしては、活躍するための力を身に着けるのを目的として RJP を行っているが、それ以外にも身に着けたほうが良い力などはなにかありますか？（高山） 仕事をしていく上ではコミュニケーション力が大事で、デザインというのは自分の世界に入り込むとコミュニケーション力が落ちてしまう恐れがある、チームで働く、動くというのは大事、インテリアコーディネーターとしての仕事自体は個でありつつも、お客様との会話・ｼｮｰﾙｰﾑや設計・関連企業との連携が大事。企業としてもそういった部分を求めていると思います。その為に何をすれば良いか考えるのが難しい。 （鈴木委員） グループワークって実はグループで出来ていないということが多く、その中の誰かに任せてしまうということが多い、全員が全員思いを出し、納得して出来上がることで初めてグループワークの成果と言える、実際に新人研修では、出来上がったものを話そうとしてる代表者・ﾘｰﾀﾞｰ以外に説明してもらうなどをし、全員が参加している。という状況を作るなど、過程の意識が大事。 （小山委員） グループで作業をするとある特定の学生の意向が強くでてしまうことがある。 個人の意見に引っ張られてしまうとグループワークの意味がなくなってしまう、RJP は上下も含めたグループ、卒業制作は個人にするのも一つの案、個人の力が発揮できるような仕組みややり方を考えたほうがよいかもしれない。PC スキルの点でいえば CAD・グラフィックソフトや動画制作など 2 年間ではかなりレベルの高いことが出来ているのでコンセプトメイキングからベースの考え方とそれぞれの個性の出し方など取り組みや指導方法の検討が必要。 （島田委員） ―島田先生から見て大学などと比較するとどうでしょうか？（高山） 大学では PC の授業が無いわけではないが実質ほとんどが独学、出来る学生と全く出来ない学生の差がある、全員がこれだけのクオリティの作品を作れるスキルがあるのはかなり高いレベル （島田委員） 専門学校と大学の違いとしては、分野の関連ソフトや技術力が専門学校のほうが上という認識がある、4 大などでは好きな人は独学で学ぶ人もいるが学校の中でソフトの技術などを教わる機会

	が無いのでどちらかと言えば、その分野の考え方などの知識を学び、頭でっかちになってしまいがち、専門学生はしっかりとした技術を持っているので、考え方や知識というものを入社後に育てていく、大学生は考え方知識より先に技術的な事を教えていくという違いがある。 企業として専門学生に求める特色は技術力で考え方といったものはあまり求められていないことが多い、技術力というベースをおさえた上で考え方というのを身に着けられると評価されやすい。 （小山委員） 現在コンペに挑戦している 2 年生がいるがプレゼンテーションを作る技術力なんかはかなりあるのでコンペなどで普段の課題とは異なるアイデア出し、考え方、表現方法などに挑戦している、こういったものに取り組んでもらいそういった部分を引き出してあげたい。 （島田委員） 周辺分野や他分野など学校にいろんな系列の学科があるので、例えば未来会議の学生版のようなほかの学科の授業など聞けたりすると面白いかもしれない、どこでどう役立てられるかはわからないが知っているのと知らないことは全然違う、ゲームであれば unity のような技術など （島田委員） unity は実際にインテリアでも使われていて私の会社でも使っています、パースやウォークスルービューなども出来、使用することがある、ゲーム系のソフトはプレゼンテーションの面でも汎用性が高い、こういった風に組み合わせが生まれていくかもしれない。 （小山委員） そういう意味でもそれぞれの学科が他の学科に向けて全員がクロスする必要はないと思うが、交流にも繋がるし、場合によっては学生たちに授業を企画してもらうのもいいかもしれない。 （島田委員） ･③2つ以上の専門性を有する複合人材の有用性に関して ―残り時間が少なくなってしまったので2つ以上の専門性を有する人材について可能性として 11 学科からどの学科が繋がればどのような人材が生まれるのかということをメールで頂けますでしょうか？（髙山） インテリア2年＋他分野2年という形でしょうか？それは学生さん自身にそういう思考があればよいが、学びたい分野があり、その分野を 2 年学んだあとに違う分野を2年学びなおすというイメージが出来ない。 大学からの大学院では、専門家同士が融合した新たな分野の学術院のようなものはあるので、例えばインテリア2年からその後ワンランク上の学びとしてインテリア+他分野のコース1年間というような形だとイメージできる。 （小山委員） データサイエンスなどの IT 系の分野なら今の時代はどの分野とも繋がると思う、 建築インテリアの世界と住まいを創るという話でいくと環境問題なども重要なテーマなので、そういった分野のさわりだけでも知識があると良いかもしれない。 （鈴木委員） 例えばインテリアを軸として 2+2 年学ぶなら先に他分野を学んでからインテリアを学ぶという形なら学びから就職までの流れが想像しやすい。 （小山委員） 2 年間さらに学ぶというのは興味が持てるのかどうかが大きな問題になると思う、例えば大学のようにどこかの曜日で午前選択授業などにして好きな学科の授業が取れる、そこから興味を持ってもらうなどというシステムがあってもいいのかもしれない。スタジオアワーや放課後などで授業外授業でもいいが、学生側から興味をもって飛び込んで貰わないと難しい。 （島田委員） 例えばデータ分析に興味があれば、2 年というよりもその勉強を入口だけでも学んでおけば社会に出てから活用することにつなげられるのではないかと思います。 （鈴木委員） 8.）次回日程と閉会の挨拶 11月25日（金）を予定しています、3月には3回目の予定ですが作品発表など含め、詳細未定なので改めてご案内させていただきます。（髙山）